

編集室から

よほど金沢に通い慣れていない限り、兼六園を素通りすることは稀です。大抵の方は、大変有名な金沢城・石川門側の入り口から入園されます。兼六園といえば必ず映し出される琴柱灯籠を確認し、適当に歩いて終了…。これが現代的兼六園の歩き方ようです。

ところが、兼六園の魅力は、観光客があまり行かない最奥にもあります。国の重要文化財であり歴史博物館にもなっている成巽閣（せいそんかく）もその一つで、文久3年（1863）奥方のため兼六園に建てられた御殿がその前身です。建築当時は、現在琴柱灯籠が背景とする霞ヶ池はまだ小さく、そのほとんどは竹沢御殿という主に奥方さまたちのための大きな屋敷でした。

兼六園と名づけられたのは、その竹沢御殿があった頃で、名付け親は松平定信です。その後、御殿は解体。後地が大きく霞ヶ池とされ現在の回遊式庭園となったのは、明治維新も間近の頃で、現在眺めている園の景色は意外に新しいのです。

さて、その成巽閣に隣接して2階建ての建物があります。こちらは、石川県立産業工芸館。県内の伝統工芸作品を一堂に紹介しています。決して古めかしいものばかりではなく、むしろ現代の作家の新しい作品も並び、一部は買い求めることもできます。

アート系の方は勿論、本物志向の強い方、手造りの価値が判る方をご案内しては、大変喜ばれている施設です。

今月の表紙写真は、その工芸館で時折開かれている講座に参加した際のもので、この時は、それはもう言葉にできないくらい素晴らしく繊細な竹細工を作られる女流作家の先生から、わずか数人が直接指導を頂きました。

作り終え自作のお茶杓で自ら点てた一服のお茶。夢中で削りだしていた時間のように、その味わいは、まったくとふくよかでした。（は）



このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。



2012/02
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp



2012/02
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

如 月



石川県立産業工芸館にて
お茶杓の手造り体験に参加して
by hama

寄稿『花の香りと木造駅舎』

花の香楽会世話人 杉浦 清司

地元静岡県掛川市で「花の香楽会」と名づけた酒蔵トラストの会のお世話をさせていただいています。かつて遠江國土方村にあった蔵元「かごのはな」で明治初期まで造られ、遠州一円に名を馳せたと伝わる幻の美酒『花の香』。この幻の美酒を、たくさんの仲間たちと百二十年の時を越えて復活させていこうというのが本楽会です。

昨年は、震災と原発事故という事態に「ぬるま湯的な日常」を揺さぶられ、価値観が一変した方も多いのではないのでしょうか。振り返ると花の香活動には、これからの暮らしに大切な、人とひととの絆づくり、「ものづくり」という生活の根っこを見つめ直す」という価値観が詰まっているように思います。

とりわけ『花の香仕込み』体験は、ものづくりの感動の頂点であり、忘れてはならない原点でもあります。そんな場を「第3楽章 夜に語りあい、朝に花の香の仕込みを見学」と銘打って二月十一・十二日に古民家の鷺山邸において夜なべ談義で語り、酒蔵の土井酒造場で早朝の仕込み体験・蔵見学と利き酒を企画・公募しています。さらに、三月十八日には、「陶酔の宴で育(む)ものづくり・絆の会」として本会六年目の新酒の蔵出し「陶酔の宴」も計画しています。

濱のつばやき 『調和』

インターネット上に無料で利用できる動画サイトがある。法令の許す範囲なら、誰でも自由に動画を投稿して、共有できる。便利な世の中になった。

知人から、ある動画を紹介された。「ネイティヴ・アメリカンの教え」と題された七分少々のものだ。アメリカ原住民インディアンの肖像と音楽がながれる中、彼らが伝える格言がテロップとして移り変わる。

自分より偉大なものには、
つねに畏敬の念をもて

頭による理解には誤りがあっても、
体による経験には誤りはない

人間は人として生まれるのではなく、
人になるために生まれる

現代の我々にも深くつなづける名言が続く。

「人間は万物の霊長」という。人間が自然を支配して好き勝手にして良いということではあるまい。

あと二ヶ月もすると春が来る。草木は一斉に芽吹く。また、田畑の草刈に精を出さねばならぬ。梅など果樹の剪定や、竹の伐採…。自然は自然のままに放置されて、最大の恵みをもたらす事には必ずしもならない。彼らの力を活かしつつ、ある程度の調整が必要だ。それには全体を眺め

さて、我「花の香楽会」主宰の鷺山氏は、JR掛川木造駅舎保存寄附金活動の代表も務めています。掛川は市民の募金活動により新幹線駅の誘致に成功した街ですが、その新しい南口駅舎の反対側、全国初の木造による天守閣復元となった掛川城側の駅舎は、昭和八年に建設されてから七十六年の風雨に耐え、第二次世界大戦の戦火も免れ、掛川市の発展の歴史を見つめてきた品格・風格のある建造物です。その保存のために行う耐震化工事に向けて呼びかけられているのがこの寄附金です。掛川市への「ふるさと納税制度活動」が活用されています。それが今、目標達成直前なのです。

鷺山代表は、「金額もさることながら、木造駅舎保存という価値観を共有することの大切さを、より多くの方々に広めたい」との思いを強く持っています。この活動を知ってはいただけどまだ行動に移していないアナタ、ネットで「掛川木造駅舎保存」と検索して市のホームページから寄付方法を「確認の上、是非参加してみませんか？」



【プロフィール】
(すぎつらきよじ)花の香楽会世話人・JA遠州夢咲企画部組織広報課。座右の銘：小才は縁に出会って縁に気づかず。中才は縁に気づいて縁を生かせず。大才は袖すりあう縁をも生かす。(柳生家家訓)



出典：掛川市ホームページ

る眼が要る。全体を眺め、生物間の調整を図り、全体を整える。これが自然に向き合い、人が果たすべき霊長としての「調和」ではないか。自然と向き合って生きてきたネイティヴ・アメリカンの格言に触れて、そう感じるのだ。

最も根源的な幸せとは何か。家族や仲間との安らかな絆ではなかったか。と、格言は続く。

人間の瞳は舌が発音できない言葉を話しかんしゃくを起こすと友人を失う
嘘をつくと自分自身を失う

親切とは、言葉をつつしみを傷つけないように心がけることだ
私の前を歩くな 私が従うとは限らない
私の後を歩くな 私が導くとは限らない
私と共に歩け 私たちはひとつなのだから
家族の間に調和が保たれば、人生は成功だ

その動画は、この言葉で締めくくられていた。

あなたが生まれたとき、周りの人は笑って
あなたは泣いていたでしょう
だから あなたが死ぬときは、
あなたが笑って 周りの人が泣くような
人生を送りなさい

民事再生手続申立と債権者説明会を経て、これまでの喧騒が嘘のように静まり返った。押し寄せる債権者の代わりに、法律に則った膨大な手続きが次々と降りかかってきた。また、最終目標である会社再建(民事再生手続の終結)には、我々が立案した再生計画に対して、債権者の数および金額で過半数の賛成を獲得すること(再生計画の認可)が必須であった¹。

61の債権者は親密な外注先の割合が高く、数については早い時期に見通しがたった。一方で、金額はその9割近くを占める銀行(15行)から多くの同意を得ることが必要であった。再生計画の肝は言うまでもなく返済額である。借金総額57億に対し、換価可能な非事業用資産は不良債権化しているものが多く²、今後10年間の事業収益を原資に加えても、返済額はわずか4億6千万(8%)。もし再生計画が認可されず破産した場合の配当0.7%とこの8%を提示して、「反対して破産させるより、賛成して再生させたほうが合理的」という理屈で押し通すしかない。前代表取締役の経営責任(自己破産)と株主責任(株価0円)は大前提とした上で、確かに論理的な主張ではあるが、92%もの債権を放棄しろという話である。それを抜け抜けと説明せねばならないことには最後まで馴染めなかった。しかし何度も通った。

2006年になると、何人かの銀行員とは個人的な信頼関係が築かれていった。構図はかなり異なるものの、短期間に濃密な非日常的体験を共有したという意味で、いわゆるストックホルム症候群³と似たような状況が生じていたのかもしれない。最初は見送りさえしてもらえないこともあったが、この頃になると応接室での重々しい話が終わった後、エレベーター前で「大変ですね、体に気をつけて下さい」、「全て終わったら一杯どうですか」という声も。弁護士からは「日本的粘り強さ」に呆れられつつ、「銀行内部の稟議状況をここまで詳細に聞き出してくる債権者はいない」と言われるほどに。

3/22、債権者集会。数で94%、金額で97%の同意により再生計画認可。票読み
に自信はあったが裁判官の声に震える自分がいた。

10/20、民事再生手続終結決定。申立から1年、再生計画認可から7ヵ月後、事業
スポンサー⁴からの資金を原資に、今後の事業収益からの返済分を繰上一括で返済
し、全ての返済を終え、裁判所等の監督から解放。終結を迎えることができた。こ
うして会社再建の当事者として夢中で走り続けた日々は、幕を下ろしたのである。(完)

1: 終結にはこれに加え再生計画に基づいた債権者への返済等が必要

2: 簿価57億のうち不動産を除いた貸付金や出資金はほとんどが紙切れ同然

3: 長時間にわたり非日常的な閉鎖空間を共有すると、人質が犯人に対して同情や共感を抱く場合がある。1973年のストックホルムでの銀行強盗人質立てこもり事件において、人質が犯人に協力して警察に敵対する行動を取っていたことなどから名付けられた

4: スポンサー選定手続を経て5月末に親会社となる

今更なのですが、当社が運営している郷土料理屋「能登の夜市」では、日々多様なお魚を扱います。ここ最近ですと

・寒鰯 ・鱸 ・白鰈 ・鰾 ・鰺 ・鯖 ・鯖 ・鰯
・真鯛 ・黒鯛 ・的鯛 ・鱈 ・鰻

等々です。皆さんどのくらいわかりますか? 寿司屋の湯飲みみたいでしょ。

私も入荷情報を毎日Face Bookなどで発信している際に、魚の特徴や味、おいしい食べ方について紹介をすることが多いのですが、この文字の由来についてはあまり知りませんでした。例えば、能登を代表する魚「鰯(ぶり)」は、師走の時期が旬なので師を採って鰯と書くのが由来だそうです。

あと面白いところでは、

「鰯(いわし)」: 大型魚の餌食になるなど海中で弱い存在であり、かつ水揚げされてもすぐ死に、腐りやすいことから「弱」をつけている。

「秋刀魚(さんま)」: 秋に捕れる刀に似た魚という意味で秋刀魚と書く。

「鱈(たら)」: 魚肉が雪の如く白いことから雪の字を用いたといわれています。

「鰻(まぐろ)」有は「外を囲む」という意味もあるようで、まぐろの回遊する様から来ているようです。

この流れで行けば、「鯖(さば)」は魚体が青いですよね。「鰾(ひらめ)」は平らですし、「鰈(かれい)」は葉っぱみたいです。

つまりは、形状、行動様式、生き様に由来することが多いのですね。そう考えると、人間にもその考え方を当てはめてもいいですよね。魚だけの特権にしておく必要もありません。

例えばこんなのでしょうか。

(1) お酒が好きで毎日飲みあるいている人は人偏の横に「呑」+「日」を

(2) 恐妻家の男性であれば人偏の上に「女」を置いて下に「男」

(3) 近年の肉食女子であれば人偏の横に「食」と「男」を置いてもいいかもです。

ちょっと皮肉も込めて、ある嗜好性や行動様式のある人々を表現する新漢字もおもしろいですね。

ちなみに私自身を漢字にするならば、いつも夢ばかり見ていることから人偏に「夢」で。。。「儂い」になってしまうではないですか。

そうならないように、その下に「成」をつけて「ドリームス・カム・トゥルー」といきたいところです。

『富士の国から ~大魔神のたび~ 』

~阿蘇のたび(その3)~ 静岡県職員 溝口 久

この日の宿は内牧温泉にある「ZENZO」だ。

通りに面し、ぽつんと一軒の旅館がある。アプローチは雑木が植え込まれ、林の中に宿が佇むという雰囲気になっている。

宿のアプローチでは由布院玉の湯が秀逸だ。かつての湿田に宿はあるのだが、目にする姿は林の中の木を間引いて宿を建てた風情だ。しかし、実際は深さ5.6mに渡って山土に入れ替え雑木を植えたものだ。昭和40年代末から50年代当初の頃と思うが、その当時日本旅館の庭に雑木を植えるという発想は殆どなかったと思う。松があり、石が置かれ、水を流すという整えられた日本庭園と、自然に近い雑木林のどちらが人を癒すことができるかを考えてみると、なるほど程々に手の入った里山とも言えるような自然の風景がいい。黒川温泉はこの自然に近い景観を徹底的に追い求めている。宿のつくりにしても露天風呂にしてもだ。

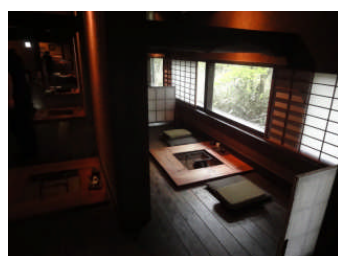
その黒川温泉を髣髴とさせる宿が「ZENZO」だ。

コンセプトは「阿蘇の田舎家」といったところで、宿の中は薄暗い。昔の田舎家は今のような開放的なガラスのサッシがあるわけではなく、囲炉裏や釜戸から煙によりすすで壁・柱・梁が黒くなっているため暗い。

その昔の田舎家を現代によみがえらせている。暗い玄関にジャズが流れ、畳み敷きの帳場に昔の電話やレジスター。スリッパはなく、無垢の木の廊下にジュートのような荒織の敷物の感触を楽しみながら客室に進む。

木造2階建てで、客室は全て2階にある。1階がフロント、食事処。

温泉は建物内部にはなく、離れにある。建物の



ためにはそれがいい。自然の形に植え込まれた雑木林の間を歩くと離れの温泉に辿り着く。途中に鶏小屋があり、ベンチが置いてある。温泉にはかなりの工夫が見られる。露天かと思ったらそうではなかった。暑さが増してくれば屋根が開き露天になる仕掛けがしてあった。洗面部分にシャワーはなく、大きな溝に温泉が流れている。これを手桶ですくって体を洗うことに使う。このアイデアはとてもいい。また、脱衣場には暖をとるためにエアコンではなく炭火が焼き、輻射熱で湯冷めを抑えてくれる。

さて、お楽しみの料理だ。豊富な野菜が鍋で、大きな鉢の氷水に浮かべたサラダバー、豆乳を鍋で温めることでできる湯葉、いずれも美味しくヘルシーで見た目もいい。旅館の料理はとかく高タンパクで野菜が少なく、胃にもたれることが多いが、ここは違う。

魚は臭みをなくすように一週間前から餌を与えない。野菜は朝採れたての野菜を館主や料理長自らが近郊農家を訪ね歩き、仕入れているという。ジャージー牛乳の茶碗蒸しをはじめ工夫された創作料理がいい。

あつかましく缶ビールを持込んだが、拒否されないばかりか、樽に氷水を張り、そこに持込みの缶ビールを出してきてくれた。生ビールを最初に頼んだが、ここまで対応してくれる宿に出会ったのは初めてだ。

朝食は見ればバイキング形式なのだが、出し方にセンスの良さを感じる。味噌汁の具を選び椀に入れてから、席の前にある囲炉裏で熱くなった汁を入れる。重箱に惣菜が隙間なく綺麗に詰めてある。お茶漬けに乗せる漬物も美しく並べられている。

囲炉裏の周りに5人ほどが座り、団欒をしながら食をとるといふ、昔の家族団欒の風景を思い出される。

これで一泊二食13,000円、コストパフォーマンスは高い。

